

第13回近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会

2024年3月28日(木) 10:30~12:00

於：米原市役所本庁舎 1階 コンベンションホール

出席者

(沿線市町)

彦根市	和田裕行・彦根市長
近江八幡市	小西理・近江八幡市長
甲賀市	樋口泰司・甲賀市建設部長
東近江市	小椋正清・東近江市長 【副会長】
米原市	平尾道雄・米原市長
日野町	堀江和博・日野町長
愛荘町	有村国知・愛荘町長
豊郷町	伊藤定勉・豊郷町長
甲良町	寺本純二・甲良町長
多賀町	久保久良・多賀町長

(滋賀県)

滋賀県	三日月大造・滋賀県知事 【会長】
-----	------------------

(公共交通事業者)

近江鉄道株式会社	飯田則昭・代表取締役社長 【副会長】
(一社) 近江鉄道線管理機構	南川喜代和・代表理事
信楽高原鐵道株式会社	山本和良・専務取締役業務部長
西日本旅客鐵道株式会社	財剛啓・京滋支社長
(一社) 滋賀県バス協会	野村義明・専務理事
(一社) 滋賀県タクシー協会	松尾武文・専務理事

(道路管理者)

国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所	中尾勝・所長 【欠席】
---------------------	-------------

(交通管理者)

滋賀県警察本部交通部	黒川昭登・交通企画課課長補佐
------------	----------------

(公共交通利用者)

滋賀県教育委員会高校教育課	富永幸・主幹
滋賀県PTA連絡協議会	山添友美・会長
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会	町田勉・理事
びわこ学院大学教育福祉学部	逢軍・教授
(一財) 滋賀県老人クラブ連合会	西澤基治・理事
滋賀県地域女性団体連合会	山本身江子・副会長

(学識経験者)

(一社) グローカル交流推進機構	土井勉・理事長
関西大学経済学部	宇都宮浄人・教授
滋賀県立大学環境科学部	轟慎一・准教授 【欠席】

(その他)

国土交通省近畿運輸局滋賀運輸支局	小山晋吾・支局長
(一財) 地域公共交通総合研究所	町田敏章・専務理事
(一社) 滋賀県病院協会	川村宏・事務長会委員 【欠席】
滋賀県社会福祉協議会会長会	大塚ふさ・副会長
(公社) びわこビジターズビューロー	西川直治・専務理事
滋賀県商工会議所連合会	二橋省之・理事

(オブザーバー)

国土交通省近畿運輸局交通政策部	小野協子・部長
国土交通省近畿運輸局鉄道部	道久聡・部長

1 開会

事務局越後：32名の出席があり、規約に基づき会議の定足を満たす。

事務局越後：資料確認。

事務局越後：議事進行を三日月知事に願う。

三日月知事：今日は米原市にたいへん素晴らしい会場をご用意いただき、ありがとうございます。また、年度末に何かとお忙しいところ、ご臨席いただいたこと、さらに、日頃、近江鉄道ならびに公共交通活性化のために様々なお立場でお力添えいただいていることを感謝申し上げます。

今日は12時までには終わるように言われているので、円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。いよいよ4月から新しい体制でスタートすることになります。非常に重要な会議になると思うので、皆様方の建設的なご参画も併せてお願いいたします。

本題に入る前に、いくつかご紹介させていただきます。1点目、近江鉄道でたいへんご好評をいただいているのが、1乗車100円で乗れるシルバーパスです。そのお歳に達していらっしゃる方は既にご利用いただいているかと思えます。10月からスタートし、2月末現在で申込者数が5,298名、利用者数が21,168名となっており、マイカーから鉄道利用へたいへん大きく貢献しているそうなので、この場で情報共有させていただきます。

2つ目、近江鉄道では副駅名命名、サブの駅名を付けることに取り組んでおられ、例えば、新八日市駅は「カネヒョウ 古美術 熊木前」、尼子駅は「古河 AS 本社前」という副駅名が付いているそうです。新たに武佐駅に沿線企業から「三菱ロジスネクスト前」という副駅名が付くそうです。お金も出していただいているようなお力添えもいただく取り組みもあります。

3つ目、先ほど事務局から資料を配布された際にご紹介がありましたが、滋賀県産木材を活用した「近江鉄道駅待合環境プロジェクト」として、滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科の学生を中心に、「多賀木匠塾」のメンバーと一緒にベンチやモニュメントを製作していただいて、近江鉄道13駅のホームに設置されているということです。若いメンバーがつくってくれ、様々なデザイン性もあるということで、ホームが明るくなったというお声も頂いているようです。

いよいよ公有民営方式の新たなスキームでスタートするので、さらに近江鉄道線を盛り上げられるように取り組んでいきたいと存じます。

2 報告

(1)2023年度近江鉄道株式会社の経営状況について

飯田副会長：資料1により説明

直接、経営状況に関連するものではありませんが、1点付け加えさせていただきます。3月5日に特殊割引旅客運賃というものを設定しておりますが、こちらの取り扱いが30年以上にわたり誤っていたこととお詫びの開示をいたしました。対象となっておられるのは、第二種知的障害者ですが、本来あるべき割引を適用していませんでした。3月5日に開示をして以来、お問い合わせがお電話で4件、ご来社の方が1件となっております。

三日月知事：ただ今の報告事項に対して、何かご意見はありますか。よろしいでしょうか。

資料1をご確認いただいたとおりですが、コロナ禍ではどうなることかと思っていました

が、おかげ様で輸送実績についても、2019年度との増減比ではマイナスの数字にはなっておりませんが、通勤定期等でコロナ禍前を上回るご利用をいただいているところです。人口が減り、人々が老いていく中、公共交通のご利用はなかなか難しいと思いますが、みんな盛りに上げているように頑張っていきたいと思います。それでは、以上、ご確認いただいたことにいたします。

3 議事

(1) 令和5年度近江鉄道沿線地域公共交通計画に掲げる取組実績および協議会事業実績・決算見込みについて

事務局大池：資料2～4により説明

三日月知事：ただ今説明があった内容について、何かご意見・ご質問はありますか。こうした様々なことを行っていることと、先ほどご確認いただいた立派なパンフレット、交流会や企業の皆様との意見交換レポート、これらの中には、今後、近江鉄道線をさらに活性化させていくためにいろんな知恵やお声が詰まっているので、活用していきたいと思います。後ほど、来年度の取組をご議論いただく場もあるので、関連してまたご意見をいただければと思います。

それでは、令和5年度の取組実績および協議会事業実績・決算見込みについて、ご賛同いただける方は、挙手をお願いいたします。

一同：挙手多数。

三日月知事：ありがとうございます。賛成多数と認め、承認することといたします。なお、先ほども説明があったとおり、決算については、年度内ですべて閉められているわけではないため、追って確定次第、書面にて協議させていただくことといたします。

(2) 運営改善期間中の利用促進等の取組について

土井委員：資料5により説明

三日月知事：ただ今の事項について、何かご意見・ご質問はありますか。言い出したらきりがなく、いろいろとお話ししたいことがあろうかと思えます。こちらも来年度の取組等に関連すると思うので、この内容についてご確認いただいたということでもよろしいでしょうか。

一同：「異議なし」の声あり。

三日月知事：ご確認いただきました。

(3) 令和6年度近江鉄道沿線地域公共交通計画に掲げる取組計画および協議会事業計画(案)・予算(案)について

事務局：資料6～8により説明

三日月知事：ただ今の事項について、何かご意見・ご質問はありますか。これから新しい体制でやろうというときに、進行役として何ですが、来年度の事業計画では、法定協議会は年2回となり、あとは4月の式典と出発式程度で、何か寂しい感じがします。

こういう骨組みでまずはスタートすることにして、10月に予定している協議会で、新体制がどういう状況にあるのかをご確認いただくと同時に、この協議会として、先ほどの活性化のためにどんな取組ができるのか、さらなるサービス改善のためにどんなことをしないといけないのかについて、新たにご提起して議論して決していく、そして、令和7年度に繋げていくかたちにしてはどうでしょうか。皆様方からご意見・ご質問を頂ければと思います。

逢委員：2点あります。1点目、一昨年からワークショップをやってきて、その結果、いろいろな提案やアイデアが出てきました。近江鉄道(株)や地域の自治会、小さいことを1つでもいいので、ワークショップをした方がいいと思っています。ワークショップのためのワークショップではなく、問題解決をするためのものなので、提案に対して具体的なことを議論したほうが良いと思います。

2点目、上下分離の出発式が4月6日にありますが、そのためには地域住民が何を思っているのか、あるいは、近江鉄道に対してどういうニーズがあるのか、大規模なアンケート調査が必要ではないかと思っています。

三日月知事：ワークショップで頂いたご意見を具現化していくための取組とか、新たな体制になって、新生近江鉄道がスタートした後の沿線住民の皆様方のお声を聞く活動を取り入れてはどうかというご意見でした。ほかに何かありますか。よろしいですか。

それでは、取組計画および協議会事業計画(案)・予算(案)について、先ほど私が追加で申し上げた、新スキームでスタートした後、近江鉄道線をどう盛り上げていくのか、10月の法定協議会で提起してご議論いただくことも含めて、この内容にご賛同いただけますか。挙手をお願いいたします。

一同：挙手多数。

三日月知事：挙手多数のため、ご賛同いただいたものと決し、そのように進めてまいりたいと思います。

(4)一般社団法人近江鉄道線管理機構の令和6年度事業計画および予算について

南川代表理事：資料9～10により説明

三日月知事：ただ今の事項について、何かご意見・ご質問はありますか。こういったかたちとして、公で持って、民間で運営するという体制になってまいります。今後、この内容について、法定協議会等で共有させていただくこととなります。ご確認いただいたものと決します。

(5)近江鉄道株式会社における2024年度鉄道事業の取組について

飯田副会長：資料11により説明

三日月知事：新しい体制でスタートされるので、何よりも安全の運行体制を確立すること、お客様から信頼される鉄道をつくること、ならびに沿線地域と連携しながら利用促進や活性化策を行っていくために、利便性改善について検討して取り組んでいきたいという内容でした。何か皆様方からご意見・ご質問はありますか。

今、触れられませんでした。以前、東京発の東海道新幹線最終電車のダイヤが20分ほ

ど遅くなり、ゆっくり米原に帰ってくるができるダイヤ改正が行われていたのですが、近江鉄道線がそのダイヤに接続がなかったという課題がありました。資料の 38 頁にあるように、この春のダイヤ改正で近江鉄道線も接続が図られよう改善されました。様々な改善を積み重ねていきたいということでした。

土井委員：1 点、活性化分科会でいろいろと取り組んできましたが、企業との交流や高校生の定期割引を検討してきたことを、丸投げするわけではないのですが、近江鉄道(株)で引き継いでいただけると、今まで続けてきたものについて、持続可能なものができると思います。もちろん協力は惜しまないことも含めて、資料の中に入れていただけるとありがたく思います。

三日月知事：大事なことだと思います。37 頁にも「沿線企業との連携」ともあるので、近江鉄道(株)に丸投げするだけではなく、みんなで関わりながら意見交換をする必要があります。先ほどもご報告がありましたが、通学定期の割引率に関しては、かねてからご意見・ご要望も多くありました。ただ、新スキームになり、どういう収支状況になるのか見極めなければなりません。もちろん定期は高いより安いほうがいいですが、安くしてご利用が増えるのかといった見極めもしないと、単なる減収に繋がるだけではないかというご意見もありました。また、新スキーム発足後、社会実験やアンケート等もしながら、検討をしていった上で実施するかどうかを決めていこうというご議論もあったので、併せてご報告させていただきます。

私より 1 点提起したいので、資料を配布します。近江鉄道(株)が来年度にやりたいことの中に、「キャッシュレス決済導入検討」という項目がありました。ご報告もあったとおり、多くのご要望も頂いておりますが、もちろん切符には切符のよさがあります。ただ、切符を買って乗ることに対する抵抗や手間を指摘されるお声も多かったので、近江鉄道線にもキャッシュレスシステム、具体的には ICOCA を導入してはどうか、検討しております。せっくなので、米原、彦根、近江八幡、貴生川で、JR と接続している近江鉄道線にもスムーズに乗降していただけるよう、先ほどお話があったように、どれだけ乗っているか、数えないとわからないというのではなく、データを見れば、その動向が把握できるようなことも必要ではないでしょうか。いちばん下の提案内容にあるとおり、県や沿線市町、近江鉄道(株)および管理機構において検討してきたので、法定協議会の総意として、ICOCA 導入を近江鉄道(株)に強く申し入れることについて、皆様方にお諮りしたいのですが、いかがでしょうか。時間がかかったというのもあるのですが、今後、近江鉄道(株)にこの取組をしていただくということでもよろしいでしょうか。

一同：「異議なし」の声あり。

三日月知事：ご確認いただいたものとしますが、近江鉄道社長、よろしいですか。

飯田副会長：承知しました。

三日月知事：無理やり押し付けるのではなく、何度か議論をしてきたので、ICOCA 以外のシステムもあるのではないかと検討した結果、やはり ICOCA を導入するのがいいのではないのでしょうか。ただ、駅に設置するのか、車両に設置するのか、また、古いものではなく、できるだけ最新のものを導入するとか、せっかく導入するのだから、なるべく早いほうがいいです。導入するためには、時間も費用もかかりますが、できれば来年度の滋賀県で開催を予定している「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025」に間に合うかたちで導入をお願いしたいということも併せて、皆様と情報共有したいと思います。以上ですが、全体を

通じてご意見・ご質問はありますか。

二橋委員：先ほど事務局の方がさらりと流して言われたと理解したのですが、上下分離方式で運営するのが初めの話だったのに、土地は税制上の問題から近江鉄道(株)が持ったまま行うことになりました。これは、ずっとそのまま行かれるのでしょうか。

事務局森原：土地については、先ほどご説明申し上げたように、税制上の課題が大きかったです。土地を普通に譲渡すると10億円以上の税負担がかかるため、赤字鉄道なので、税負担をしてまで譲渡するのが難しいということで、今回、土地はそのままというかたちになりました。但し、近江鉄道(株)が保有したままですが、土地活用については、第二種・第三種鉄道事業者が連携して、何か具体的な活用方法があれば、自治体も含めて話し合っ、有効活用できる取組に繋げてまいりたいと考えております。

二橋委員：何かやるときに近江鉄道(株)の意向を踏まえる必要はないと理解してよろしいですか。

飯田副会長：土地に関しては、鉄道のために存在する土地なので、例えば、所有権が近江鉄道(株)になるからと言って、別の目的に使うことはあり得ません。所有権については、税制上の課題がまだあるので、そちらの進捗によっては、移転の可能性はあり得ると申し添えておきます。

南川代表理事：線路や駅等は管理機構に譲渡されました。土地は近江鉄道(株)のままなので、管理機構が借りるかたちになります。近江鉄道(株)の土地においても、鉄道用地や不動産用地等という様々な区分があるので、鉄道用地は鉄道を運行するための用地なので、管理機構が借り受けて、鉄道運行に資するようにします。ただ、近江鉄道(株)が不動産事業を営むものは、別の土地になってきます。基本的には、管理機構が借りているので、近江鉄道(株)と相談しながら、不便のないように進めたいと思っております。

三日月知事：ご指摘のとおり、すっきりと分けておくことがいちばんの理想だったと思います。ただ、先ほどからあったように、その移転に伴う税負担をどう考えるのかという中で、われわれが国にも税制改正を掛け合いましたが、その時点では突破できませんでした。現在、土地についてはご確認いただいたとおりですが、今後、様々な制度の見直しが行われることが想定されるので、柔軟に考えていきたいと思っております。

宇都宮委員：全体観として、いろいろな取組が精力的になされ、雰囲気が変わってきていると改めて実感しています。ご尽力された皆様に感謝を申し上げたいと思っております。

今後の取組の中で、通学定期が話題になっているので、申し上げます。通学定期は、単に割引によって学生利用を増加させるためだけではなく、本来、通学の負担軽減により、誰もが教育を受けられ、そして、地域全体の教育レベルが上がるという教育政策の下で通学定期の割引はあります。そうすると、社会全体、地域全体が恩恵を受ける受益者となるので、本来的には、鉄道事業者が負担するものではなく、既に愛荘町と東近江市では支援をされていますが、もっと公的なかたちで地域が負担するよう、しっかりと進めていただきたいと思っております。前回の協議会でも申し上げたように、受益と負担の矛盾については、既に国会でも指摘され、昨年地域公共交通活性化再生法の改正の際には、国会の付帯決議として、費用を交通事業者が負担していることを踏まえ、本来の教育費等の予算で検討することが明記されています。ぜひ、近江鉄道線は日本のリーディングプロジェクトとして注目を集めているわけなので、その点について、関係市町、住民の理解を得ながら進めていただきたいと思っております。

三日月知事：たいへん重要な提起で、先ほど申し上げたとおり、今後、どのように考えていくのか、当然、そのための費用を「誰が・どのように」負担していくのかという議論もあるので、今後も引き続き検討していきたいと思います。

宇都宮委員：それから、いろんな取組をされています。まちづくりを考えるために、住民と連携するというので、前にもお話ししましたが、市民重視で近江鉄道沿線のまちづくりを活性化していく、「まちづくりと交通の広場しが」という私も関わる形で団体をつくりました。最初のフォーラムには、近江鉄道(株)の社長にも来ていただき、滋賀県にもご尽力いただき、近江鉄道の社員もボランティアで参加されました。先般、東近江市の「わくわくコラボ村」というお祭りでも大学が部屋を借りて、大勢の方に来ていただきました。ただ、予想以上に近江鉄道線が知られていないと感じました。東近江市の能登川地区なので、沿線ではないのですが、どこかで聞いたことがあるくらいの方が割といらっしゃいましたが、私が近江鉄道について説明すると、納得されて帰っていかれました。広報をよりしっかりやっていくことが今後も重要ではないかと思いました。国土交通省の認可を受けて事業をしてきており、いろいろとやったつもりですが、まだやることは多いと感じました。

三日月知事：様々な事業にご参画して盛り上げていただき、感謝申し上げます。

山添委員：本日、参加させていただき、ありがとうございます。また、いろんな取組を体験させていただき、感謝申し上げます。

通学定期については、私自身も賛同したいと思っています。補助についても、いろんな地域が協力し合えたら、素晴らしいのではないかと思っていますので、お願いいたします。ICOCAについて、保護者の目線からすると、ほぼすべての学生が所持していると思うので、ICOCAの導入を進めていただけたらと思います。

定期割引をすると、乗車率が上がるかどうかについて、もちろん割引はありがたいです。保護者としては、割引を望んではいますが、どうしても乗車時間が長いと感じています。近江鉄道線の乗車駅によっては、朝の通学が1時間ほどかかる子どももいます。私自身も近江鉄道線に乗車していた学生時代を思い出すと、長い時間がテスト勉強の時間にもなっていたり、いわゆる「アオハル」と呼ばれる時間になっていたと思います。長い通学時間が子どもや保護者に与える負担を考えると、ダイヤ改正について増便等を考えていただいていると思いますが、乗車時間についても一緒にご検討いただけたらと思います。

三日月知事：定期割引だけではなく、乗車時間の長さを解消するには、速度によるのかもしれないし、快速みたいな車両があればいいのかもしれませんが、どこからどこまでにするのかという議論もあるかもしれません。いずれにしろ、ダイヤ改善はとても重要だと思うので、引き続き近江鉄道(株)と法定協議会、さらには管理機構の皆様と一緒に共有していきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。予定していた時間になりました。本来であれば、ご参加のすべての方にご発言いただくのが筋かと思いますが、ご賛同もいただき、多くのテーマについて共有していただいたということで、会議を閉じたいと思います。最後に管理機構の代表理事から、ご紹介したいことがあるそうです。

○その他

南川代表理事：管理機構が第三種鉄道事業者、近江鉄道(株)が第二種鉄道事業者というかたち

で、4月1日から新しく動き出します。当日、知事と近江鉄道社長と私とで、再構築計画の認定書を頂きに近畿運輸局に行く予定です。言葉が正しいかどうかわかりませんが、晴れて鉄道事業者となることになるので、どうぞよろしく願いいたします。

4月1日の朝7～8時の間で30分程度、全線の駅で管理機構と近江鉄道(株)の職員が朝立ちをさせていただいて、PRをしたいと思っております。近江鉄道社長は彦根駅、私は八日市駅に行く予定で進めております。管理機構と近江鉄道(株)から、お願いの時間を頂きました。今後ともよろしく願いいたします。

三日月知事：ありがとうございました。新生近江鉄道として、住民の皆様にPRをするための活動を精力的にやろうということなので、ご都合のつく方は、一緒にご参加いただき、激励のお声がけを賜ればと思います。以上をもちまして、第13回近江鉄道沿線地域公共交通協議会を閉会いたします。この間、ご協力いただいた皆様方に心から御礼を申し上げて、拍手で皆様の労をねぎらいたと思います。本当に皆様、ありがとうございました。

一同：拍手

4 閉会

事務局越後：委員の皆様、熱心にご議論いただき、ありがとうございました。ご案内のとおり、4月6日(土)には、「新生近江鉄道」出発式典を開催させていただきます。ご都合のつく方は、ご参加いただき、花を添えていただければと思います。本日は誠にありがとうございました。

以上